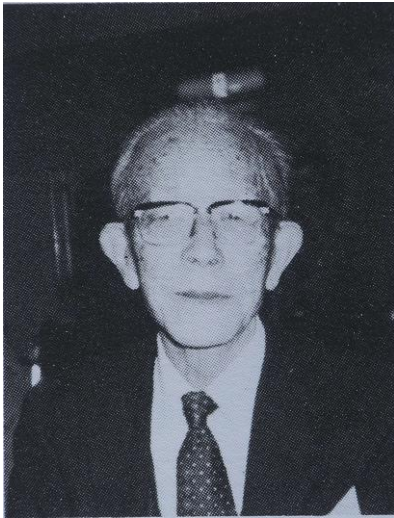


「 2・25 会 」 の 天 馬 像 (※1)

中第 25 回卒 佐 藤 慶 一 (※2)



本会のこの名称は、昭和 2 年卒、相中第 25 回の意。

戦闘能力の関係か、召集少く助かった仲間も多い。

飯豊出身の熊川威少尉が緒戦で逝って、我々のギセイになってくれた。

代りに、各界の人材は豊富。双葉中創立前で相双ほか隣接他部から、小 5 卒で富岡の秀才や、石城からは 19 歳の人も入学した。

110 名の卒業生中、何ととっても看板は斎藤邦吉代議士。元県議小高町長の鈴木重郎治、新地町長四期の橋本正一皆健在。宮城県議の故高橋正男も誇れる。

教育畑では、高専校長県教育長歴任の佐藤光、東北学院大教授だった岩崎敏夫文博が健在。宮農短大教授の故前田信秋農博と 3 人が異彩を放つ。

医者 of 斎藤賢三、星喜一は故人、高玉正彦は東京で産科医院長。公務員や実業人も多彩だが、ラグビーの故佐々竹直義は日本代表の選手だった。でも卒業 60 年の今日、3 分の 1 だけの生存とはさびしい。

(元小学校校長)

(※1) 創立 90 周年記念誌 『 紅の旗 』 (1988(昭和 63)年 9 月 2 日発行)

100 周年に向けて「我等 OB も頑張っているぞ！」より。

(※2) 大野出身。

(転記&※脚注 村山)